

庭野平和財団 2015 年度 活動助成報告書

コード番号:15-S-002

1. **プロジェクト名** : チッタゴン丘陵におけるレイプ・DV 被害者の包括的支援プロジェクト
2. **活動費全額** 2,047,240 円 **助成金額** 1,606,040 円
3. **活動期間** 2015 年 4 月～2016 年 3 月
4. **活動地域** バングラデシュ、カグラチヨリ県、コックス・バザール県
5. **実施団体** ジュマ・ネット

6. プロジェクトの背景と概要

1997 年の和平協定で少数派のジュマの武装グループが武器を手放したにもかかわらず、協定にあった軍の撤退、自治の権限委譲、土地問題の解決、国内避難民の支援事業はほとんど実施されなかった。不利な立場に置かれたジュマ住民には日々さまざまな政治的抑圧状態に置かれている。

ジュマ・ネット独自の調査では、チッタゴン丘陵地域のレイプ・レイプ未遂事件では、年齢が報告されている被害者 111 人中 80 人 (72%) が 20 歳未満の未成年者であり、その内、身体障害者の少女 6 人、10 歳未満の幼女 9 人も犠牲になっている。レイプ事件 63 件中 23 件は集団レイプであり、強姦殺人事件 9 件中 3 件は集団レイプ後の殺害事件だった。軍関係者が加害者であることも珍しくない。

政治的に有利な立場のベンガル人入植者のレイプ犯罪が正当に裁かれることは少なく、告訴などに踏み切ると復讐に遭うなど、多くの場合泣き寝入りするか、僅かな示談金で解決されてしまう状況がある。こうしたレイプ被害者の支援と、地域住民にレイプ被害者について理解を求める活動を 200●年より、包括的なレイプ被害者の支援モデルプロジェクトとして開始した。

この事業は第一フェイズを、2010 年～2012 年までにすでに実施しており、今回は第 2 フェイズの 2 年目である。

7. 2015 年度の報告

(1) 反女性暴力チームの結成と各種ミーティング

① 四半期調整ミーティング

このミーティングは、反女性暴力チーム結成と活性化のために 2 つの県でそれぞれプロジェクト関係者と中心的な参加者の間で行なうのもので、活動の方針の確認や意識の活性化、スケジュール調整などを目的におこなった。

カグラチヨリ県	2015 年 11 月 12 日	12 人
	2015 年 12 月 17 日	10 人
	2016 年 3 月 27 日	10 人
コックスバザール県	2015 年 10 月 10 日	15 人
	2015 年 12 月 13 日	15 人

② 女性の権利活動家との年度調整ミーティング

2015 年 12 月 27 日、地域で影響力のある国会議員、人権活動家、NGO 関係者などをあつ



め、女性の権利を守る環境について意見交換を行った。当日はプロジェクト関係者のほかに、カグラチヨリ県の国会議員、郡の議長、NGO 活動家などが参加し、女性の権利と反暴力のあり方を議論、シェアした。また最後に、被害者3名に生活再建のための現金が渡された。

③プロジェクト実施の調整ミーティング



以下の通り、プロジェクト実施に関わるスタッフや責任者の調整ミーティングを実施した。特に事件発生時の対応方法、記録の取り方、活動の方針やタイミングなどを確認しあった。特に昨年度の事業結果の反省点を確認し、改善を目指した。

2015年11月12日

コックスバザール県の事務所

参加者 15人

(2) 女性の権利・暴力からの保護の啓発活動

①反女性暴力チームと地域リーダーとのワークショップ

2015年7月11日に、反女性暴力チームと地域のリーダーとの対話を通じたワークショップ研修を実施した。研修の主な目的は、現在の女性への暴力に対する法律の実施率、制度の課題などを出し合って、改善のためにどう行動するかを明らかにするものである。主な参加者としては、県評議会メンバー、弁護士、NGO スタッフなどを含め、27名が参加した。研修の成果として、「草根のレベルでの啓発活動の拡大の必要性」「地域の学校、地域リーダー、カレッジ教師、学生、政府官僚などへのセミナーをさらに展開すること」「村裁判法の改正のために県評議会との共催セミナーの開催」などが提案された。

②カレッジ、高校、労働組合等での気づきのための集会



多くの市民や女性自身に女性の権利と法律の現状を知ってもらうミーティングを二つの県で合計 6 回開催した。これまでしっかりとした情報を得ることがなかった若者や女性たちの多くが、必要な情報を得る場となった。

2015 年 9 月 15 日	カクラチョリ県ペラチャラ高校	約 200 名の高校生が参加
2015 年 11 月 18 日	カグラチョリ県公立女性ガレッジ	約 350 名のカレッジ生が参加
2015 年 11 月 19 日	カグラチョリ県アドルシャ・クリシ・ゴベシュナ高校	約 150 名の高校生が参加

③記念日行動

以下の 3 日間の記念日に、集会とデモ行進を行い、女性の権利と非暴力を訴える場作りを行なった。こうした大きな集会を行なうことで、地域社会にその重要性を伝えることができた。

●世界地域女性の日（2015 年 10 月 15 日）

地域のリーダー、NGO 関係者を招いて、地域における女性の重要な役割を訴えるとともに、献身的な地域活動を行なった二人の女性を受賞した。



●女性への暴力撲滅の日（2015 年 11 月 25 日）

主にカグラチョリ県で、地域のリーダー、NGO 関係者を招いて、集会を行なった。

●国際女性の日（2016 年 3 月 8 日）

デモ行進と議論セッションの二つのイベントを行なった。当日はカグラチョリ県・コックスバザール県の両方で実施され、NGO 関係者、地域のリーダー、大学・高校生などの 200 名の参加を得て、実施された。



(3) 被害者の包括的支援

①被害女性の記録作り

活動期間で、合計 48 件の女性に対する暴力事件が二つの県から集められた。カグラチョリ県は 25 件、コックスバザール県は 23 ケースだった。カグラチョリ県は、17 件がレイプ、3 件がレイプ未遂、2 件が誘拐、3 件は家庭内暴力であった。コックスバザール県は 23 件すべてが家庭内暴力であった。また継続的な包括的支援対象者は、カグラチョリ県で 5 名、コックスバザール県で 6 名となった。

②被害者の法的支援

2011年からカグラチョリ県の26人の被害者に対して法的支援を行なった。そのうち22ケースは継続しているもので、今年度は4ケースが新たに加えられた。

③被害者の生活再建支援

深刻な被害を受け、生活が厳しい被害者に対して、生活再建のための資金25000タカを提供するとともに、12月27日に授与式を行なった。対象となったものは以下の3名である。

<イティモニ・チャクマ >



5歳のときレイプ被害に会い、本人は今は寄宿学校のモノゴールで学んでおり、その勉学のための資金として提供された。加害者の裁判は続いており、拘置所にいる。

<シャンパリ・トリプラ>



高校生で、1年前の12月にレイプ被害に会ったが、未遂で終わっている。しかし、事件を裁判にかけ加害者を訴追しており、まだ提訴が続いている状態である。

<パルビン・アクタール>

3人の子どもを残して、夫が数年前に蒸発し行方がわからず、育児を放棄し、勝手に再婚していたことがわかった。そのため、必要な法的手続きと生活再建を行なっている最中である。

④被害者へのシェルター・サービス

加害者に対して法的な措置をとった場合、加害者側から脅迫や二次的な暴力事件に発展することがあるため、シェルターを臨時に設けている。2015年は2名の被疑者を6ヶ月間シェルターに保護した。

(4) その他(リーフレットの発行)

上記の3つの記念日行動の際、活動の意義や目的を明記したリーフレットを作成し、配布した。

2016年3月の被害者聞き取り

3月にプロジェクトのモニタリングをかねて現地訪問したが、カグラチョリ県に入域する許可をもらえず、被害者にチッタゴン市まで出向いてもらい、ヒヤリングを行なった。その簡単な報告です。

プルニマ・チャクマ（5歳、仮名）

カグラチョリ県パンチョリの農村に住んでいる。事件は1年前に発生した。日中。夫婦が畑仕事に出かけており、プルニマが一人自宅でいた。近隣に住むベンガル人入植者（推定35歳）が、プルニマに「おいしいパイヤをあげる」と自宅に連れて行き、そこでプルニマの性器を乱暴に触り、傷つけた出血した。プルニマが泣きながら歩いているのを近隣の人が見つけ両親に伝えた。両親が問い詰めたところ犯人が近隣のベンガル人であることがわかり、犯人を警察に引き渡した。父親としては今回の事件に憤りを感じている。プロジェクト関係者から励まされ、示談に済ますのではなく、裁判にかけて法的に対処したという強い希望を今も持っている。

このプロジェクトではこの法的支援を行なうほか、生活再建の一部として、25,000 タカ（約3万5千円）を渡し、耕作用の土地を借りている。少女の将来の夢は、「弁護士になりたい」という。

ジュリ・トリプラ（12歳、仮名）

カグラチョリ市内のバイボンチョラに住んでいる。事件は2014年の2月に発生した。当時は小学校3年生だった。当時はドゥルガブジャというヒンドゥーの祭りで、父は仕事にでかけ、ジュリと年下の兄弟だけが家におり、道路近くで料理の準備をしていた。午前10時頃ベンガル人がオートバイで通りかかり、自宅付近でバイクを止め「水をほしい」と家の敷地に入ってきた。水を飲ましたところ、自宅に引き込まれ、そこでレイプされた。しゃべると殺すと脅された。午後母親が戻ってきて、ジュリの様子がおかしいので問いつけたところ、事件を伝えた。その際、犯人のベンガル人が再度通りかかったのでジュリがそれを両親に告げ、その場で近隣住民に拿捕され、村長のアドバイスもあり、警察に引き渡された。

その後1年間犯人は拘置所にいた。プロジェクト関係者の進めもあり、両親は脅しに負けず、法的な手段で提訴を続けている。プロジェクトからは25,000 タカ（約35,000円）の生活再建費用を受け取っており、その資金で乳牛を購入している。本人はあまり勉強は好きでないようで、今後は家事手伝いを続ける予定である。